



旧友交歓会

●最近の交流写真

近年の交流の様子を撮った写真をお送りください。
簡単な説明文をつけていただけましたら幸いです。

◇猛虎会の沖縄・阪神キャンプ&グスク（城）めぐり
（2024年2月17日～21日）

度々訪沖している正田君のプランにしたがって、井元、玉越の両君に森が加わって、関空から沖縄入り。沖縄南部の戦跡、自然信仰・斎場御獄（せーふあうたき）、阪神&巨人のキャンプ見物、グスク（城）5カ所をめぐり、沖縄の食と酒と島唄を満喫した楽しい旅だった。



「続日本100名城」の一つ勝蓮城（グスク）

琉球王国のグスク及び関連遺産群としてユネスコの世界遺産として登録されている。



めんそーれ、タイガース春季キャンプ。「A.R.E.」に向かって、の歓迎看板がひととき目立つ。キャンプ地・宜野座で躍動する選手のナマの姿につき声援!! 本土からのファンで大賑わい。

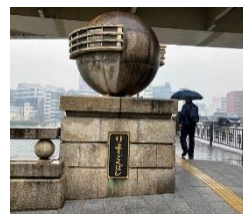


首里城の守礼門前で。2019年10月31日未明の火災で正殿などが焼失。26年内の完成を目指して復元工事が進んでいる。（文・写真提供：森俊彦）

◇東京両国・回向院から芥川龍之介の生育地めぐり
（2024年3月12日）

正田君と計画した両国巡りに、宇都宮、加藤、中尾さんが加わり、生憎の雨も吹き飛ばす華やかな会に。

両国は隅田川対岸の街。江戸の防衛上、幕府が橋を架けなかったため、明暦の大火で甚大な犠牲を出した。回向院は、その供養の寺院。境内で多くの勧進相撲が興行され相撲の聖地となった。当地に国技館が建てられたのはその縁。赤穂浪士が本所松坂町の吉良邸に討ち入ったのは元禄14年。討入後、休息をとるため回向院の門を叩いたが、門は固く閉ざされていたという。



散策の締めは熱燗とちゃんこ鍋（文・写真提供：矢熊晃）

◇舟引さんの古楽演奏会の後で

(2024 年 4 月 21 日)

新大阪ココプラザで開催された古楽の演奏会の後、新大阪駅前のイタリアンでディナー。学生時代のこと、卒業してからのこと、舟引さんの古典芸能の世界のことなど、いろんなことを話して、とても楽しい時間でした。今度は、荒川さんの Bar UK にも行きたいねとも話し合いました。 (文・写真提供：加藤真智恵)



右から、萩原（加藤）、新倉（宇都宮）、舟引（吉村）

◇適塾と清酒「緒方洪庵」

(2024 年 5 月 13 日)

村田君のブログ「適塾とその保存」によせて、新倉さんから、このところ増えてきた阪大グッズのひとつ清酒「緒方洪庵」の紹介と画像が届きました。

以下是新倉さんからの紹介文です。

「阪大病院の側の生協でしか売ってないです。緒方洪庵は医者だから医学部生協で売って言うことだそうですね。右側、白いラベルのは、要冷蔵の冷酒です」。



聞くとところによると、緒方洪庵は、虚弱な体質でありながら7男6女の子沢山だったとか。その多くが立派に育ち、その後の社会に大きな功績を遺したというのは素晴らしいことです。

そこで清酒「緒方洪庵」は、「子孫繁栄」をキャッチフレーズにすればいいかもしれません。政府の少子化対策にも役立つかも。

阪大医学部生協さん、ぜひご一考を（笑）

(写真提供：新倉敦子)

◇十三の居酒屋・富五郎で「まちかね会」

(2024 年 6 月 29 日)

掲示板で、しばしば話題になった十三の富五郎で、久々に「まちかね会」が開かれました。今回は、新たに高見君（右手前）と豊嶋君（左列4人目）が参加してくれて総勢 11 名。学生時代のことや今取り組んでいることなど、夜が更けるまで楽しく語り合いました。



大森君、中尾さん、正者君、宇都宮さんは美術部仲間



◀ 初参加の豊嶋君（左奥）
左列、辻本さん、加藤さん
右列、宇都宮さん、正者君

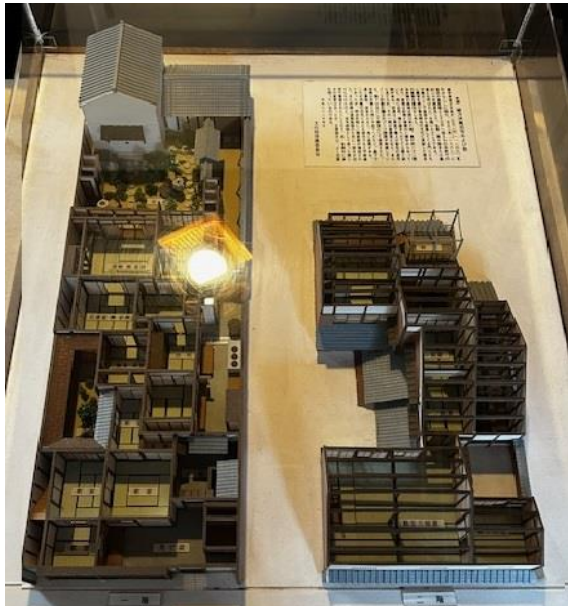


(写真提供：正田隆司・矢熊晃)

◇適塾訪問

(2024 年 6 月 30 日)

まちかね会の翌日、村田君が修復保存にかかわった適塾を森君と見学してきました。淀屋橋駅から至近距離にある大阪商家（町屋造り）の遺構でもあり、都心の一等地によくぞ残ったものだと感心しました。



教育の中心は蘭書の会読で、たった1冊しかない和蘭辞書（ゾーフ辞書）を奪い合って勉強したそうです。上の模型の右手前が塾生が共同生活を送った2階の大部屋。成績に応じて私有スペースに差があったという。部屋の中央の柱に

は、今も刀傷が残る。塾生は当時の武士である。なにを憂い、なにに怒り、刀を振るったのだろう。（文・写真：矢熊晃）